

設楽ダム工事関連遺跡範囲確認調査 おこなぐら 大名倉遺跡 かみとがみ 上戸神遺跡
かわむきはぎのだいらさわ 川向萩ノ平沢遺跡 おおぐり 大栗遺跡 ながえさわ 永江沢遺跡

所在地 北設楽郡設楽町大名倉字滝ノ下、同町川向至上戸神、同萩ノ平沢、同大栗、同町八橋字的場（北緯35度06分32秒 東経137度32分41秒、北緯35度06分49秒 東経137度33分25秒、北緯35度06分48秒 東経137度33分28秒、北緯35度06分40秒 東経137度33分51秒、北緯35度07分36秒 東経137度35分09秒）

調査理由 設楽ダム

調査期間 平成26年6月～26年7月

調査面積 150㎡

担当者 鈴木正貴

調査の経過 調査は、国土交通省中部地方整備局設楽ダム工事事務所による設楽ダム工事関連の範囲確認調査として、国土交通省から愛知県教育委員会を通じて委託を受けて行われた。今年度は5遺跡が調査対象となり平成26年6月から実施された。調査方法は各遺跡で事業用地内にかかる部分について1m×2mのテストトレンチ (T.T) を設定し、遺構や遺物の有無を確認し堆積状況などを観察した。テストトレンチの内訳は大名倉遺跡14か所 (28㎡)、上戸神遺跡15か所 (30㎡)、川向萩ノ平沢遺跡3か所 (6㎡)、大栗遺跡41か所 (82㎡)、永江沢遺跡2か所 (4㎡) である。

立地と環境 大名倉遺跡は豊川 (寒狭川) 上流右岸の河岸段丘から山麓にかけて所在し、今回は山麓斜面 (標高452m～462m) を中心に調査した。上戸神遺跡、川向萩ノ平沢遺跡および大栗遺跡は豊川支流の戸神川左岸に点在する遺跡群で河岸段丘から山麓にかけて所在する。上戸神遺跡は南東方向に細く伸びる尾根上緩斜面 (標高465m～480m)、川向萩ノ平沢遺跡は南向き緩斜面 (標高477m～489m)、大栗遺跡は河岸段丘を中心に一部が山麓斜面 (標高395m～415m) にかかる立地となっている。永江沢遺跡は豊川支流の境川左岸に所在し、今回は境川に面する河岸段丘 (標高約440m) で調査した。

調査の概要 これまで平成19・20・25年度に範囲確認調査が行われており、今回は高位の山麓斜面大名倉遺跡部で住宅地跡地や休耕田および植林帯で実施した。遺構は、北部に設定したT・T02で土坑1基が検出されたのみで、堆積状況などからみて近代以降の遺構と推定される。遺物は、北中部の休耕田地区で江戸時代後期から近代の陶磁器類が多数出土しており、中央部休耕田地区のT・T05で戦国時代に属する土器と陶器片、T・T07では室町時代の古瀬戸陶器片、T・T09では縄文時代の石器が出土した。これらの地点は、地山の状態などからみて地山をかなり削り込んで平坦面が形成されたものと推定される。縄文時代から戦国時代の遺物は別所から移動されてきたものと推定される。

上戸神遺跡 東堂神社の正面にある平坦面を中心に展開する縄文時代・平安～戦国時代の遺物散布地として周知される遺跡である。今回の調査対象範囲は東堂神社の東方にあたる。北部住宅地地区では近代以降に大規模に造成されており、遺跡は良好に残存していないと思われる。西部から南部にかけては、T・T09で方形土坑1基が確認され、鉄製品2点が出土した。またT・T13では黒褐色土から縄文土器が出土したが、これは上位から流入されたものと考えられた。今回の調査範囲では、T・T09で遺構と遺物が確認された他は、中世後期以前の遺跡が展開するとは考えにくい。

川向萩ノ平沢遺跡 県教委の詳細分布調査の結果、縄文時代と平安時代の遺物散布地として発見された遺跡で、調査対象範囲はその南端部に相当する。全ての試掘坑で黒褐色土が確認されており、

T・T03で縄文時代の石器が1点出土した。これ以外に遺構と遺物は発見されなかったことから、調査地点よりも上位で縄文時代の遺跡が展開しているものと推定される。

大栗遺跡 縄文時代・平安時代・室町～戦国時代の遺物散布地として周知される遺跡である。西部地区では土石流によるものと推察される角礫を多く含む厚い堆積が確認され、遺跡の有無は確認できなかった。T・T10で弥生時代から古墳時代の土器が1点出土した。中央部地区では、特に南半部緩斜面で黒色土が安定して堆積していることが判明し、T・T17とT・T22とT・T36で土坑などの遺構が確認され、T・T21とT・T36では縄文時代の石器が出土した。特に、T・T36では土坑から剥片石器などが出土しており、縄文時代の遺跡が良好に残存していることが確認された。一方、南部地区では、東部緩斜面部で遺物包含層となる可能性がある黒色土が確認され、江戸時代の遺物が出土している。遺構は確認されていないが、付近で調査中に縄文土器が表採されたことから、東部緩斜面部で遺跡が存在した可能性が考えられる。しかし、西部平坦面部では黒色土の堆積、戦国時代以前の遺構と遺物は確認されなかった。

永江沢遺跡 縄文時代・鎌倉～室町時代の遺物散布地として周知される遺跡である。調査の結果、T・T1とT・T2ともに厚い河川性堆積物がみられ、遺構と遺物が全く確認されなかった。上位の堆積は耕地整理の際に盛り土の可能性が考えられる。

(鈴木正貴)

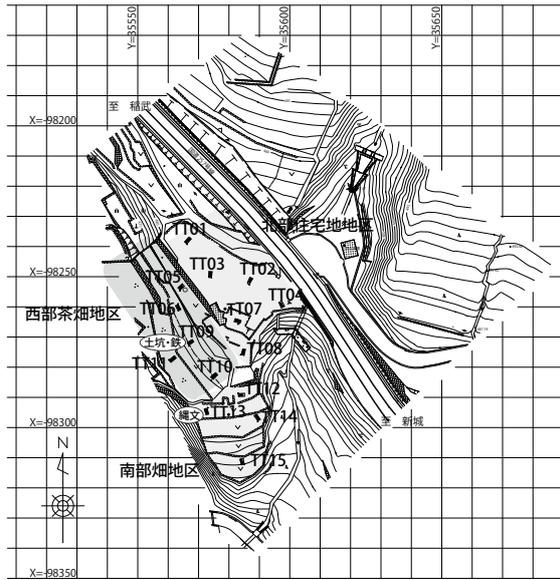


図1 範囲確認調査の遺跡位置図 (1:25,000「田口」)

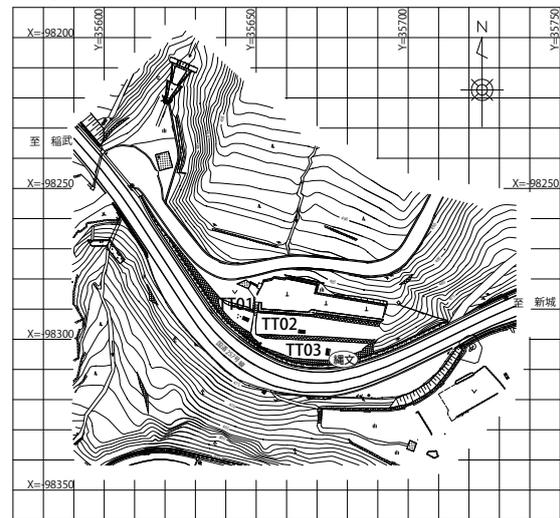
大名倉遺跡



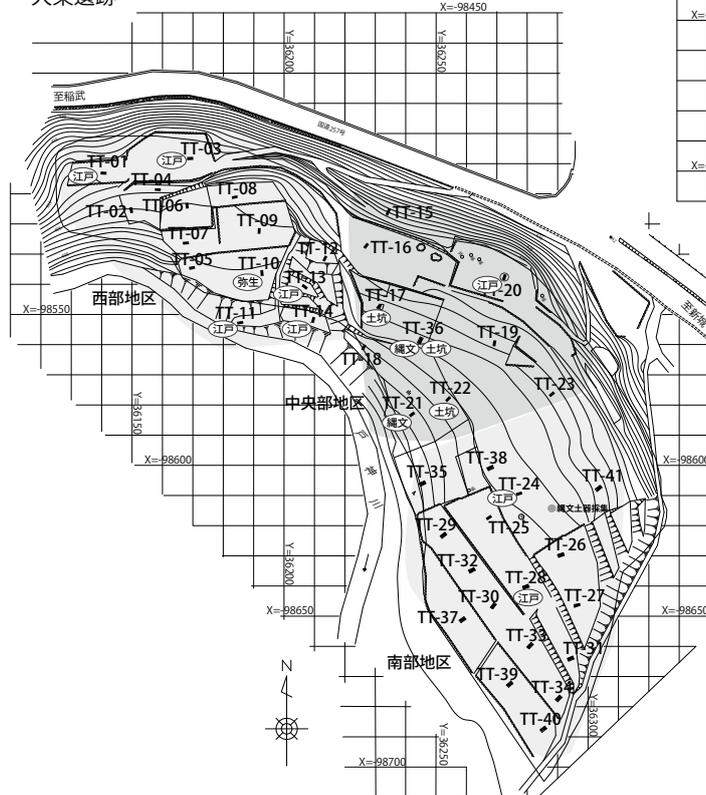
上戸神遺跡



川向萩ノ平沢遺跡



大栗遺跡



永江沢遺跡

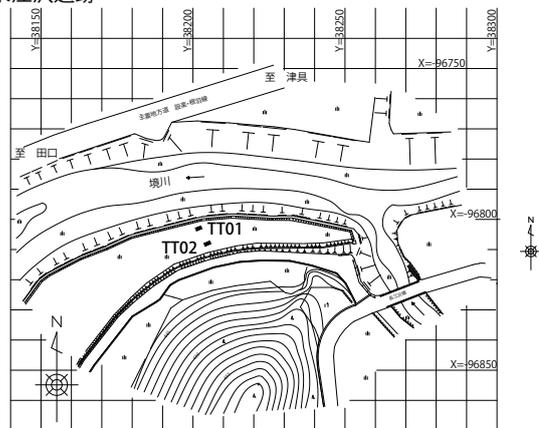


図2 範囲確認調査のトレンチ位置図 (1:2,500)